



増田 善信(ますだ よしのぶ)さん (狛江市在住)

略歴：1923年 京都府に生まれる。1944年中央気象台気象技術官養成所本科(現気象大学校)卒業。海軍予備学生志願。1945年海軍少尉。島根県「大社基地」で沖縄特攻を送る。1949年気象大学校研究科卒業。1949～59年気象研究所に勤務。1959～78年気象庁予報部電子計算室(現数値予報課)予報官、日本で最初の大型高速計算機 IBM704 を使った数値予報の草分けの一人。1959年日本気象学会賞。1961年理学博士(東京大学)。1978～83年日本学術会議会員(第4部・地球物理学)、公選制最後の会員。1978～84年気象研究所研究室長。1984年退職。1985～92年広島原爆後の黒い雨を再調査し、「増田雨域」を発表。被爆者運動に一石を投じた。

現在：非核の政府を求める会常任世話人、酸性雨調査研究会代表幹事。

著書：『台風論』(共著)、『数値予報』、『気象と科学』、『核の冬—核戦争と気象異変』、『核の夜—科学者は警告する』(共訳)、『地球環境が危ない』、『地球の叫びが聞こえますか』、『大競争時代と規制緩和』(共著)、『広島・長崎 原爆被害の実相』(共著)、『地球温暖化を理解するための異常気象学入門』